

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(195)

産業創出戦略

の高さや、市場発展の見通しの不確実さなど、研究開発のみでは解決しきれない。政

3月末に国産量子コンピューター初号機の稼働が華々しく報じられた裏で、北米の量子

長を促していく方向性

量子人材の教育や訓練の中心は大学であり、4月に追加候補となつ東海国立大学機

量子未来社会ビジョンが掲げられ2030年目標はどうぞ意欲的

にも量子技術の実用化が切り拓く未来」でだ。量子技術が大きな可能性を秘めていること

置かれた量子技術イノベーション拠点の強化による効率化、人材育成の重要性が大いに認識され、技術進展を見極めながら徐々に市場の成長を促していく方向性

きく取り上げられていく。ミアを含めた国際協調が必要と認識される。技術と社会の流れを見極めながら持続的に投資を進めた国だけが、その果実を得ることになるだろう。

産業創出戦略

の高さや、市場発展の見通しの不確実さなど、研究開発のみでは解決しきれない。政

3月末に国産量子コンピューター初号機の稼働が華々しく報じられた裏で、北米の量子

長を促していく方向性

量子人材の教育や訓練の中心は大学であり、4月に追加候補となつ東海国立大学機

量子未来社会ビジョンが掲げられ2030年目標はどうぞ意欲的

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(195)

業の実用化・产业化には多くの課題があり、量子技術を事業に導入する際の障壁た。



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター
フェロー(システム・情報科学技術ユニット)
東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。日本科学未来館で解説業務・実演・展示制作に、JST戦略研究推進部で「十 分野の研究推進」に従事後、17年より現職。著書に『量子コンピューティング』。
博士(工学、公共政策分析)

嶋田 義皓

量子技術長期視点で実用化

量子未来産業創出戦略(2023年4月)

研究

量子技術イノベーション戦略
(2020年1月、2022年4月改訂)

ビジョン

量子未来社会ビジョン
(2022年4月)

産業

量子未来産業創出戦略
(2023年4月)

2030年目標

1000万人

量子技術の
国内利用者数

50兆円規模

量子技術による
生産額

量子ユニコーン
ベンチャー企業

未来市場を切り開く

内閣府「量子未来産業創出戦略 概要」より一部抜粋して作成

https://www8.cao.go.jp/cstp/ryoshigijutsu/230414_mirai_gaiyo.pdf